



富士ワイズメンズクラブは「**社会を明るくする運動富士市推進委員会**」の加盟団体です

国際会長主題	A・シャナヴァスカーン	より良い世界のために、共に
アジア太平洋地域会長主題	ジョウン・ウォン	大きなインパクトを起こそう
東日本区理事主題	山田公平	ワイズの方向を見極める
富士山部部長主題	相磯優子	たゆたえども沈まず
富士クラブ会長主題	仁藤斎浩	広げよう 楽しい活動 思いやりの心

会長	仁藤斎浩
副会長	増田 隆
書記	増田 隆
会計	岩辺富雄
直前会長	吉澤廣美
担当主事	金井 淳

2024年 10月協調月間 10月 会報 ASF

巻頭言

秋はいづくぞー

監事 仲澤昭夫

昔懐メロに「春よいずこ」と言う歌があった（映画春よいずこの主題曲で藤山一郎二葉あき子が歌った）。嗚呼～ああ、はあ～ははいずこぞ雨が降るーと春の訪れ（実は恋人同士の恋の成就）を邪魔する雨を揶揄した歌詞だったと記憶するが、今ならああ～嗚呼、秋はいずこぞ、陽が熱いとても歌いたくなるほど残暑？酷暑が厳しい。彼岸に墓参りをして線香をあげて立ち上がったらクラクラと眩暈がするほどだった。そしてこの原稿を書く少し前、能登半島で線状降水帯による洪水の被害が出てしまった。正月の地震に洪水とダブル災害に遭った人々には何とも掛ける言葉がない。2年前やはり洪水で床上浸水に見舞われた清水市の事も記憶から抜けてしまうほど、全国各地で起こる災害が多すぎて覚えきれない。暑すぎて云々などと被災地の方から見れば贅言な言動だと自戒しなければいけない。然り乍ら日本の美しい四季が崩れかけている。それが農作物に多大な影響を及ぼしている。今後世界的気候変動で四季が二季にでもなって暑いと寒いだけになったら、それでなくとも自給率の低い日本は大変な食料不足に陥るだろう。世界人口は2019年統計で七十七億人、日本の人口減少に比して世界

★2024年10月例会★

- | | | |
|-------------------------|-------------------------|--------|
| と き | 2024年10月9日（水）18:30～ | |
| と ころ | ホテルグランド富士（0545-61-0360） | |
| 受 付 | 吉澤廣美君 | |
| 司 会 | 金井 淳君 | |
| 1. 開会点鐘 | | 仁藤斎浩会長 |
| 1. 開会の挨拶 | | 仲澤昭夫君 |
| 1. ワイズソング・ワイズの信条 | | |
| 1. 東日本区理事、富士山部長、会長主題の唱和 | | |
| 1. 会長挨拶 | 富士クラブ | 仁藤斎浩会長 |
| 1. ゲスト・ビジターの紹介 | | 仁藤斎浩会長 |
| 1. 食前の感謝 | | 増田 隆君 |
| 1. マイタイム | | |
| 1. 各委員会・書記・会計・事務局報告 | | |
| 1. 出席率・スマイル報告 | | |
| 1. 閉会の挨拶 | | 高野 亨君 |
| 1. 閉会点鐘 | | 仁藤斎浩会長 |

例会終了後役員会を開催します

10月 Happy Birthday

岩辺富雄君 10月15日

9月例会報告

在籍会員	10名	例会出席者	6名	スマイル基金	6,000円	CS基金	円
休会会員	0名	出席率	60%	スマイル累計	13,000円	CS累計	円
担当主事	1名	ゲスト	名	ビジター	名	総出席者	6名

では 2050 年には九十七億まで増えると言われている。あとに二十六年後で。大正の米騒動の時のように「豊葦原の瑞穂の国に生まれいで、米が無いとは嘘のような話」などと嘆いてはられないだろう。世界は宗教、領土争いどころではなく熾烈な食糧争いになるだろう。そうなれば、何処の国が日本に食料を輸出してくれるだろうか？

9 月例会報告

小澤君の司会で9月例会が定刻どおり開催されました。仁藤会長に緊急の仕事が入り急遽例会を欠席しました。水道の仕事をしている彼は、水道は生活に密着しているので断れないと現場に急行しました。彼らしいです。増田副会長が開会点鐘と会長挨拶を代行しました。欠席者が他に2名いたので6人で9月の例会は開催されました。今月のマイタイムはメンバーにおける「夏の思い出」をテーマとしてスピーチしていただきました。

小澤君は外の仕事が多く、この暑さで1日3~4回着替えるそうです。今乗っている電気自動車だとメーターを見るたびにストレスがたまるのでガソリン車を買ったそうです。それでメネットさんと涼しい所へ旅行にいきたいと熱く語っていました。岩辺君はお孫さんのサッカーの応援でエコパスタジアムに行った時、食べ物買いにキッチンカーの前で暑い中、並んで待っていたら横のキッチンカーでアルバイトをしていた浜松の大学に通っている孫娘さんに偶然出くわしたそうです。

吉澤君は小学生の頃、もの凄い台風が来襲し、家の窓を父と必死に押さえた思い出話。鈴木君はお盆休みに家族旅行で下田海岸近くのホテルに宿泊したが、今は声をかけても誰も行こうとはしないと寂しく語りました。仲澤君は家業がアイス屋なので夏は忙しかったが、子供が絵日記の材料がないのでどこかに連れて行ってくれと懇願され1日だけ休んで下田海岸に行ったことが思い出される、と。増田君は吉澤君と同じく、小学生の頃の台風がとても怖かった話でした。次に、各委員会報告、出席率、スマイル報告があり9月例会は終了しました。

9 月役員会報告

1. クリーン作戦について
10月27日(日)10時よりロゼシアター前集合次第作業開始となりました。
2. その他

- ・12月のクリスマス例会について、会員だけのクリスマス例会にするか、コロナ以前のようなクリスマス家族会で実施するか10月役員会で検討することになりました。
- ・漆畑ワイズから当分の間クラブに参加できないのでよろしく願いますと報告があり、休会届を提出することになりました

マイタイム

CS委員長 金井 淳

今年の夏休みも富士山YMCAでは、3歳~高校2年生までの348名の子どもたち、70名を超える指導者(ボランティアリーダー・スタッフ)が「キャンプ(教育的組織キャンプ)」を過ごしました。YMCAが行っている「キャンプ」は、1860年代にアメリカで始まり、日本では1920年に大阪YMCAが初めて六甲山麓で実施しました。以降、100年以上に渡って、参加する子どもたちのみならず、指導者であるボランティアリーダーも含めた青少年の成長を目的とした社会教育活動としての「キャンプ」を行ってきました。

「キャンプ」における教育活動は「Learning by Doing(なしつつ学ぶ)」と言われます。子どもたちは自然の中で様々な体験を行い、その体験をもとにした「ふりかえり」を通して、様々な学びを得ていきます。また、子どもたち一人で体験するのではなく、同年代の友人、「斜め上の関係」と比喻される指導者が共に生活し、共に活動する「グループワーク」(人と人のかかわりの中でその人の間に起こる作用と、それによって個人やグループが変化・成長すること)も大切にしています。私自身、小学生の頃から、ボランティアリーダーとして活動した大学生、YMCAスタッフとなった今も、「キャンプ」を通して人間として成長していることを実感しています。

YMCA だより

富士山YMCA 金井 淳

富士山YMCAでは、9/11~12に夏休みのサマーキャンプを支えてくれたユースボランティアリーダー2名とスタッフ3名でワークキャンプを開催しました。サマーキャンプで乱雑となってしまった倉庫やアクティビティスペースの整理、新しいアクティビティの体験など、盛りだくさんの内容でした。前回5月に実施して以来、今年2回目の開催でした。今後も多くのユースボランティアリーダー、スタッフ、さらにはワイズメンの皆様にもご参加いただき、多くの方々の力で富士山YMCAをより良く作り上げていければと思っています。

